

◆ 同志社女子大学 表象文化学部日本語日本文学科 教授
吉海 直人 (よしかい なおと)

○ プロフィール：

1953年長崎県生まれ

國學院大學大学院修了。博士（文学）

1989年同志社女子大学学芸学部日本語日本文学科専任講師

現在、表象文化学部日本語日本文学科教授

専門は日本の古典文学、特に『源氏物語』・『百人一首』の研究。

最近『新島八重愛と闘いの生涯』（角川選書）を出版した。

○ 講演題目： 菅原道真と百人一首 ～「このたびは」歌をめぐって～

○ 講演概要：

ここ数年、百人一首がブームになっている。「ちはやふる」というマンガの
人気、その火付け役になっているのだろう。ちょうど小学校四年生の国語
の教科書に、百人一首が採用されたことも大きい。その百人一首の中から、
今回はけいはんなにもっとも近い場所が歌われている菅家の歌をとりあげ
てみたい。菅家とは菅原道真のことである。道真は漢詩人だが、秀歌を集め
た百人一首にも名を連ねる歌人でもある。

道真の代表歌としては、大宰府左遷と関わりの深い「東風吹かば」歌が有
名である。しかし百人一首では「このたびは」歌が選ばれている。この歌に
ついて、「手向山」「紅葉の錦」「神のまにまに」という三つの表現に注目し、
そこから「このたびは」歌を鑑賞してみたい。それだけでなく、百人一首の
主題・撰歌意識にまで言及する予定である。